

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	5	学校名	加納高等学校
------	---	-----	--------

社会的役割等 (コア・ミッション)	普通科、音楽科、美術科を設置し、自主自律した個性豊かな生徒の育成に取り組む高校として主体的に課題解決に取り組む学びや未来を創る知識や文化芸術を探究する学びを通して持続可能な社会の担い手として、豊かな感性と創造性を持った人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	自主自律した個性豊かな生徒を育てる ・大志を実現するため、学問を導ぶ気風を広め、高い学力を養う。 ・濃やかな感性と国際的な感覚を養うため、文化を尊重する校風を醸成する。 ・品性ある豊かな人間性を身に付けるため、高い道徳観及び倫理観を培う。		
3つの方針 (コア・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか【GP】	・大志を抱き、高い知性を兼ね備え、自らの理想(ゆめ)に向かって挑戦できる生徒 ・個性を認め、他者を尊重して協働することができる心豊かな生徒 ・持続可能な社会の創り手として、主体的に課題解決に取り組む、社会に貢献できる 生徒(普通科) ・音楽や美術の専門性を生かし、将来、芸術分野で活躍できる生徒(音楽科・美術科)	
	生徒をどう育てるか【CP】	・生徒一人一人の個性や長所を伸ばすための教育課程の編成と個に応じた指導の徹底 ・ICTの活用や授業改善による学びの質の向上と主体的、対話的で深い学びの実現 ・自主性や仲間との協調性を育むため、生徒を主体とした学校行事や部活動の運営 ・主体的な学びによる主体的判断力、計画立案力、コミュニケーション力、課題解決力の育成(普通科) ・個性を尊重した少人数の専門教育による芸術的感性や創造的表現力の育成(音楽科・美術科)	
	どんな生徒を待っているか【AP】	・知的好奇心が旺盛で、自分の目標を目指して勉学に励むことができる生徒 ・自由な校風の中で、部活動や生徒会活動などに主体的に取り組むことができる生徒 ・音楽を専門的に学び、将来、演奏家や指導者などを目指している生徒(音楽科) ・美術を専門的に学び、将来、作家やデザイナーなどを目指している生徒(美術科)	
学校の抱える課題	・自主自律した個性豊かな生徒を育てるため、3学科を有する本校の各学科のカリキュラムを見直し、魅力ある学校づくりを目指す必要がある。 ・生徒が自分の将来像を考え、その実現のために主体的に学習に取り組む必要がある。 ・キャリア教育を推進し、学校での「学び」と自らの将来との接点を認識させ、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする必要がある。 ・学校生活にふさわしい身だしなみや時間(期限)を厳守する等、基本的な生活習慣の確立と挨拶やマナー等の社会性を高める必要がある。 ・多様化する生徒へ対応するため、生徒理解に努め、相談スキルを向上させる必要がある。		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	学びの機会の保証、多様な学習ニーズへの対応の視点から、魅力ある学校づくりを推進します。	
	学習指導	個に応じた指導を通して、主体的な学習態度を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組みます。	
	進路指導	確かな学力を身に付けさせるとともに、大志を抱き主体的に進路選択できるよう3年間を通してキャリア教育の充実を図ります。	
	生徒指導	基本的生活習慣の確立とモラル・マナーの定着に努めるとともに教育相談活動の充実を図ります。	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	取組計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A,B,C,D	成果と課題	総合評価 A,B,C,D
学校経営	魅力ある高校を目指したカリキュラムの検討	施策IV-20	・生徒、保護者アンケート(学校生活の満足度80%)	※【生90%・保90%】は生徒アンケート、保護者アンケートの高評価の割合を示したもので、すべての分野共通。 ・普通科について令和8年度入学生の新しいカリキュラムが完成した。 ・3年間見直したシラバスを作成し、全職員が協力して内容を精査した。 ・教職員は、学校経営や教育活動に熱心に取り組んでいる。【生93%・保89%】 ・オンライン学習による学習支援体制を、必要な生徒が利用しやすいように整えて継続実施している。 ・生徒会執行部会で活発な意見交換を行った。 ・生徒会活動が活発である。【生85%】 ・22年分の高評価を通して、生徒が充実した学校生活を送っている。【生97%・保93%】	A	○校内でのパンフレットや学校見学会を通じて、新しいカリキュラムも踏まえて、本校の魅力を十分に発信できた。 ○審判科の新しいカリキュラムに基づいたシラバスの冊子を作成することで、生徒が学びをデザインするための進捗ができた。 ○昨年度以上に、オンライン学習支援制度が生徒の学びの大きな助けとなった。 ○生徒会執行部を中心に、110周年記念式典、文化祭等の学校行事の運営や校内の規定の見直し等、生徒が主体的に取り組む活動が実施できた。	
	教職員の学び合い文化の醸成・協働的な職場づくりのための支援	施策IV-26					
	オンライン学習等を含む学習支援体制の整備	施策IV-23					
	自主性や協調性を育む行事や活動の実施	施策I-1					
学習指導	教科横断的で探究的な学びと課題解決能力の育成を目指した探究活動(GLI事業)の充実	施策I-4	・GLI発表(アンケート)	・学年担当職員全員協力の下、1年生、2年生と継続的な探究活動を実施した。		○生徒が主体的に、自身の興味・関心に基づき、地域や外部と連携した探究活動を実施することができた。	
	個の能力に応じた学習指導と主体的に学習に取り組む姿勢の育成	施策II-8	・生徒アンケート(授業に対する満足度80%)	・ICT機器の活用、教材研究等を通して、各自が研鑽を積んでいる。 ・先生の授業は丁寧でわかりやすい。【生92%】 ・ICT機器を有効に活用した授業が行われている。【生72%】	B	○授業内容については、概ね概ねを得ている。 ○ICT機器の活用は、授業だけでなく家庭学習でも十分に行われ、教員の業務軽減にも繋がっている。	
	ICTを活用した授業スタイルの研究	施策II-9	・生徒アンケート(ICT活用80%)	・全校集会時の話題の一つとして、読書を取り上げた。 ・3年向けに、進路選択や入試に役立つ本を紹介する通信を不定期に発行した。 ・22年分の学年別貸出冊数平均は1年:4.4冊、2年:2.5冊、3年:2.5冊、全校:3.2冊であった。		▲年々、読書離れが進んでおり、それを打破する手立てを試みたが、思ったより効果は薄かった。来年度以降も継続して、読書活動を励行したい。	
	読書活動の励行	施策II-8	・生徒貸出冊数平均4.5冊				
進路指導	大学系統別説明会や模擬授業、進路探究学習などのキャリア教育の充実、生徒の将来像の早期明確化	施策II-13	・満足アンケート(満足度80%)	○ハイレベル模試に挑戦する生徒の定着 ・保護者対象進路ガイダンスの実施 ・保護者進路研修会の対面実施 ・大学系統別説明会の実施 ・大学別模擬授業の実施 ・各団体観・講演会の案内 ・外部講師による講演会 ①講演会「夢をかなえるコツ」 ②外部模試解説講義の定着 ③名古屋大学オープン授業の実施 ・看護体験や教育実習などインターンシップの実施 ・総合的な探究の時間と進路探究学習を兼ね ・進路講演会等により進路や将来について考える機会がある【生90%】 ・進路説明会を実施するなど、生徒・保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている【保86%】		○1年生・大学系統別説明会、2年生・大学別模試授業、保護者進路研修会の内容・講師を充実させて実施することができた。 ○各種講演会や模擬授業に対する生徒の評価は好評であった。 ○ハイレベル模試へ挑戦する生徒の人数は昨年並み。目標値には違いないが、参加者の学力の差は縮まっている。 ○国内外一流の講師を招き、目的意識の向上のため芸術性の高い講演会を実施することができた。 ▲外部模試解説講義や難関大学説明会の参加者が少なかった。周知の方法を工夫したい。	A
	高い目標に挑戦するための確かな学力の育成	施策II-8	・志望上位国公立4大学現役合格者(80名)				
	解説講義や講演会の活用、上位層の拡大	施策II-8	・ハイレベル模試に挑戦する生徒の定着(40%)				
	保護者進路研修会の実施、保護者の方々の進路に関する意識・情報共有	施策II-13	・保護者アンケート(進路情報提供満足度80%)				
生徒指導	MSリーダーズやPTAと連携した交通安全運動	施策I-7		・生活安全、交通安全、災害安全に関する指導が適切に行われている【生95%・保87%】 ・PTAの生活安全委員会と連携し、朝の登校指導で遅刻防止や交通安全を呼びかけた。 ・先生は悩みや相談ごとに親身になって対応してくれる。【生85%】		○いじめ事案のように、教育相談を中心に組織的な対応を必要とするケースが増えているが、関係職員と連携して、該当生徒の対応に当たることができた。	
	登校時の声掛け等、PTAと連携した遅刻防止指導	施策I-7	・生徒、保護者アンケート(満足度80%)				
	スクールカウンセラー等、外部の専門家を活用した教育相談の充実	施策I-3		・教育相談室の教員、スクールカウンセラー、学校相談員と連携し、生徒の悩みや相談に対応することができている。 ・いじめや差別を許さず、厳格に対応している【生91%】	A	▲前年よりような交通事故は起っていないが、軽度の事故が多発していることについて、近隣住民からの指導もあり、継続的な指導が必要である。来年度より乗用ヘルメットの所有、着用が自転車通学許可の要件となることを機にヘルメットの着用率を上げ、交通事故を最小限に押さえない。	
	職員研修会(教育相談、いじめ対応、発達障害等に関するもの)の実施と組織体制の強化	施策I-3		・各種のアンケート、教育相談期間等を活用し、小さなSOSを見逃さないよう組織体制の強化に努めている。			

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年2月2日

<ul style="list-style-type: none"> ・新しいカリキュラムにおいて、生徒が進路目標に応じた選択ができるように仕組みを整えていく。 ・個人でのタブレット購入となるため、今まで以上に授業や家庭学習においてICT機器の活用方法を研究し、家庭学習と授業とがリンクする指導を行っていくことで、タブレットの有用性を実感できるようにしたい。 ・情報発信のツールとしてのHPやメールを、読書活動の励行にも利用していく。 ・進路行事の質の向上から、生徒の進路意識と学力の向上を目指す。 ・高学力層の生徒のグルーピングから、ハイレベル模試への受験や外部講義の積極的な参加を促し、全体の学力向上を目指す。 ・自転車の交通ルールやマナーを徹底し、交通事故防止に努める。 ・いじめに繋がる言動の未然防止や不登校への対応など、一人ひとりに寄り添う事案が増加している。これに対して、職員間で情報を共有し、組織的に連携して取り組んでいきたい。

学校関係者評価 実施日：令和8年2月10日

<ul style="list-style-type: none"> ・各分野における評価があれば、総合評価として無理にまとめる必要はないのではないかと。 ・高校としての「魅力」については、ぜひ具体化して提示してほしい。 ・ICT機器の活用については、ネガティブな声を含む注意書きも、生徒や保護者に積極的に情報発信するとともに、マレーシア研修におけるオンライン対談など、より生徒に還元できる利用の仕方を模索していただきたい。 ・読書活動の励行については、図書館の本の貸出冊数の増加のような限定的な指標に止まらず、生徒自身が読書の大切さに気づける講演会を実施する等、継続的に、より効果的な取り組みを検討して欲しい。 ・音楽や美術など、本物に触れる機会には本当に貴重な経験である。 ・ハイレベル模試の挑戦者や難関大学説明会への参加者が少なかったようではあるが、参加した生徒にとっては、自身の進路を定めるよい機会になっていたと思う。 ・安全な社会で安心して生活できることが充実した生活に結びつく。生活安全、交通安全、災害安全に関する指導が適切に行われていることは喜ばしいことである。
